

# 市民と議会のかけ橋として、 願い届け奮闘

2016年羽曳野9月議会 日本共産党議員団の一般質問



**ひろせ公代**

南恵我之荘3-7-2

TEL 938-4701

FAX 同上

## おかしいぞ!大阪府「子ども医療費助成」 対象年齢引き上げても、補助金増えず

### ◆府は子ども医療費助成への所得制限をやめるべき

子どもの医療費助成制度は、全国の市町村どこでも取り組まれています。羽曳野市も今年4月から中学校卒業まで入通院とも引き上げられて、大変市民に喜ばれています。

大阪府は平成27年4月に全国で都道府県としては3歳未満までと最も低かった助成から小学校入学までに助成年齢を引き上げました。対象者が大幅に増えたにもかかわらず、府全体の補助金は、所得制限を厳しくしたり、入院給食費補助をなくしたことにより2億3,000万円の減額となっています。その結果、羽曳野市への府の助成金は、53万円しか増えませんでした。

また、27年度府の羽曳野への補助金は約3667万円でしたが、所得制限をなくせば補助金が3433万円増額になり、7100万円になると試算されています。「高校卒業まで助成拡大」への道につながります。羽曳野市は、府に対し「所得制限無しですべての子どもに助成」を強く求めていくべきです。

大阪府のこども医療費助成の実態

	26年度	27年度
対象者数(府)	19万1903人	21万8403人
助成決算額(府)	36億6000万円	34億3000万円
当市の府助成対象者数	4735人	3072人
当市への府助成額(医療分)	3539万円	3667万円

対象者  
増えても  
2億3千万減

所得制限で  
対象者は  
大幅減

## 点数至上主義、競争原理に立ったチャレンジテストでなく 一人ひとりの頑張りが実を結ぶ、本物の教育改革を

### ◆チャレンジテストは教育になじまない

大阪府は、高校入試での内申点の範囲を決めるチャレンジテストを今年度から実施しています。このテストは、生徒の学校での頑張りや評価するものでなく、点数によって競争させる、つまり点数至上主義、競争教育そのものです。また、子どもの成長・発達を促し、個々人の有する能力を伸ばし、自立的に生きる基礎をつちかい、社会人として必要とされる基本的資質を養うという教育の目的から大きく外れるものです。

このチャレンジテストについて、羽曳野市教育委員会は、「教

育効果は明確になっていないが、入試への意識改革のカンフル剤といった側面はある」といった答弁で、府のいいなりです。

文部科学白書は「欧米諸国と比べて教育環境は依然として低い水準」と指摘しています。教育委員会は、その指摘を受け止め、少人数学級を実施することや教職員の多忙化解消などに努め、教育条件を改善し、子どもの成長や発達保障にむけ、主体的に責任をもって教育行政を進めていくべきです。



**嶋田たかし**

学園前4-3-21

TEL 958-5876

FAX 957-6262

## 命を守る介護保険制度の充実、施設の安全対策を!

### ◆介護保険制度の充実を!

介護保険の制度の「改定」により、全国の自治体で「総合事業」を来年4月までに、開始することとなります。羽曳野市は、10月から開始されます。最大の問題は、要支援1・2の人(2,280人・認定者の36%)の、ホームヘルプサービスとデイサービスが介護保険給付から外されます。そこで、「総合事業」では、こうしたサービスの低下が起こらないように質問しました。

市は「『専門的サービス』が必要なケースには『現行相当サービス』を利用する。総合事業の利用が適する人には基本チェックリストの手続きをする」と答弁。

市長は、「『総合事業』で行う多様なサービスは、サービスの

低下につながらない。介護施設で働くみなさんの労働条件も大きく改善をしていく」というような答弁でした。

「総合事業」では、現在介護保険のサービスを必要としている人には、窓口でのチェックリストは行わず、サービスの低下にならないようにすることを要望しました。また、政府が社会保障の費用を減らす中で、介護保険制度を維持、充実させていく立場で、市町村とも協力し、国に対応するよう要望しました。

そのほか、

### ◆社会福祉施設等の安全対策

◆選挙の投票率の向上と有権者の立場に立った投票所の改善について質問しました。



**若林信一**

西浦1-7-6

TEL 958-1322

FAX 958-2624

ご意見・ご要望 お気軽にお寄せください <http://www.jcp-habikino.net>